

漢字の広場① 三字以上の熟語の構成

めあて 三字以上の熟語の構成を理解したり、由来に関心をもったりしよう。

一 次の熟語の意味を考えましょう。

少人数

「少」(少) ない ↓ 「人数」(人) ↓ 数

保健室

「保健」(保) ↓ 健康 (を) ↓ 「室」(へや)

身体測定

「身体」(身) || 体 (の) ↓ 「測定」(測) ↓ 定める

二 教科書四六ページを読んで、三字と四字の熟語の構成をまとめましょう。

構成	例
一字の語が並ぶ	市—町—村、衣—食—住 など
一字と二字の語が結びつく	諸 ↓ 問題、無 ↓ 所属 など
二字と一字の語が結びつく	演奏 ↓ 会、電車 ↓ 賃
二字と二字の語が結びつく	登場 ↓ 人物、一進 ↑ ↓ 一退

三 熟語の切れ目に / を入れて線で結び、構成について考えましょう。

- ① 郵便 / 物
- ② 世界 / 遺産
- ③ 下水 / 処理 / 場
- ④ 蒸気 / 機関 / 車
- ⑤ 特別 / 天然 / 記念 / 物

四 次の□に漢字をあてはめて、三字の熟語を考えましょう。

新□□	(例) 新商品、新学期、新記録 など
□□券	(例) 乗車券、入場券、定期券 など
不□□	(例) 不可能、不自然、不安定 など

五 熟語には、長い言葉を省略して短くしたものがあります。次の言葉の省略した形を() に書きましょう。

- ・ 高等学校 ↓ (高校)
- ・ 入学試験 ↓ (入試)
- ・ 図画工作 ↓ (図工)
- ・ 重要文化財 ↓ (重文)
- ・ 農業協同組合 ↓ (農協)
- ・ 国民体育大会 ↓ (国体)

六 教科書四八ページ「五年生で学んだ漢字

①」に書かれた言葉を読んだり、ノートに短文を書いたりしましょう。意味の分からない言葉は辞書で調べてみましょう。

雪は新しいエネルギー

めあて 地球温暖化について知り、雪がエネルギーとしてどのように利用できるか考えよう。

一 教科書四九〜五九ページを音読しましょう。音読したら□に丸をつけましょう。

○

二 教科書五〇〜五九ページを読み、形式段落（一マス下がっているところ）に分けましょう。

ヒント 全部で二八段落あります。

三 「地球温暖化」「異常気象」「再生可能エネルギー」について知っていることを書きましょう。

※知っていることが書かれていれよ。

四 ①〜④段落（教科書五〇〜五一ページ八行目）を読み、世界各地で起きている地球温暖化についてまとめましょう。 ※「石炭、天然ガス」は順不同

① 地球温暖化の大きな原因は、石油や（石炭）、（天然ガス）などの（化石燃料）を大量に使用し、二酸化炭素などの（温室効果ガス）を排出していることである。

② （化石燃料）には限りがあり、このまま使い続けると、いずれは使いきってしまうと予想する人たちがいる。

③ （化石燃料）にたよらない社会をどのように作りだしていけばよいか。

④ 化石燃料に代わる新しいエネルギーとして注目されているのが、（再生可能エネルギー）である。代表的なものに、太陽光（ソーラー）、（風力）、（水力）、（地熱）などがある。これらのエネルギーは、地球温暖化の原因となる（二酸化炭素）を排出せず、自然の中でくり返し生成されるので、環境に悪いえいきょうをあたえない。 ※「風力、水力、地熱」は順不同

五 形式段落⑥（教科書五二ページ一行目）に「雪はエネルギーだ。」とありますが、雪がどのようにエネルギーとして利用できると思いますか。考えを書きましょう。⑤段落（教科書五一ページ十行目）の「ガラスのピラミッド」をヒントに考えましょう。

※エネルギーという言葉に対するイメージや、⑤の「ガラスのピラミッド」を読んで、雪を使って冷やすなどの内容が書かれていれよ。

☆ 説明文を読むとき、「問いかけ」でしようか。「注目」しようか。問いかけに対する答えがどう書かれているのか、どんな具体例を挙げて説明しているのかを考えながら読みましょう。

雪は新しいエネルギー

めあて 雪エネルギーの利用について、具体的な事例とその利点をまとめ、筆者の主張と事例の関係を考えよう。

一 形式段落⑤(教科書五〇ページ十行目)から⑯(教科書五五ページ十行目)を音読しましょう。音読したら□に丸をつけましょう。

二 筆者があげている雪のエネルギー利用について、事例とその利点をまとめましょう。

事例	場所	使い方	利点
氷室	・北海道むかわ町穂別 北海道沼田町、美唄市、(風連)町 ・(山形)県 ・(新潟)県 ※山形県、新潟県は順不同	雪の保存 野菜の保存 米の貯蔵	長い期間、鮮度を保った状態で保存できる。 冷蔵庫より長持ちする。
雪冷房	・ガラスのピラミッド ・国際メディアセンター ・新千歳国際空港のターミナルビル	雪を地下の貯蔵庫に保存し、冷房に利用する。	石油の節約になる。 二酸化炭素の排出をおさえられる。
2		※各地でどのように利用されているか、書かれていればよい。	

ヒント

教科書にのっている図やグラフも参考にしましょう。

三 筆者が、雪をエネルギーとして利用することを主張している理由を「化石燃料」「再生可能エネルギー」の特徴を比べながら考えましょう。

(例) 使用すると二酸化炭素を排出し、限りがある化石燃料とはちがひ、雪は二酸化炭素を出さず、自然の中でくり返し生成される再生可能エネルギーだから。また、日本の国土の半分以上は雪国であり、新しいエネルギーとして期待できるから。

※「化石燃料」「再生可能エネルギー」の特徴と雪とを比べて、雪を利用することのよさが書かれていればよい。

四 雪のエネルギー利用によって、筆者は、雪国の暮らしにどのような変化の可能性を考えていますか。また、どんな課題があるといっていますか。

変化の可能性

・(冷房費用)が削減されるだけでなく、(二酸化炭素)の削減にもつながる。

課題

・冬に降った(雪)をどのような

雪は新しいエネルギー

めあて 筆者が取り上げている事例の順序を考え、なぜその順序にしたのか、筆者の意図を考えよう。

一 筆者は、雪のエネルギー利用の可能性を述べる時、昔の氷室↓現代の野菜貯蔵庫↓ガラスのピラミッド↓洞爺湖サミット↓新千歳空港の順で取り上げています。ここに筆者のどんな意図があるでしょうか。次の二つの書き出しに続けてまとめましょう。

身近で想像しやすい例から順に取り上げること、(例) エネルギーについてくわしくない読み手でも、興味をもって読むことができるようにする

※興味をもって読むことができることや、これまでに活用してきた再生可能エネルギーを今後もし生かしていくことなどにふれていればよい。

古くからの利用のされ方から順に取り上げること、(例) 自分たちの暮らしている地域の自然の力を見直すことが、新しいエネルギーを生み出すことにつながることを強調する

という意図。

二 筆者は、「雪の保存という課題」や「今後の課題」などにもふれています。

(1) 今後の課題について、形式段落⑳(教科書五八ページの五行目)をもとにまとめましょう。

①雪の利用が (雪国) に限られていること。

②雪の冷熱エネルギーがほかの (再生可能) エネルギーに似て、エネルギーとして利用するときの (効率) が低いこと。

③雪の (保存施設) は容積がかさばるため、新たに導入するとき (費用) がかかること。

(2) 課題を示すことは、筆者の主張にどんな効果にあたえているでしょう。次の書き出しに続けて考えてみましょう。

雪のエネルギー利用のよい点だけでなく、課題を示すことで、(例) 否定的な意見も含めた上で、それでも価値があることが読み手に伝わる

という効果。

☆ 説明文では、取り上げる事例の内容や順序に筆者の意図がふくまれています。読み手に何を伝えようとしているのかをきえながら読みましょう。

雪は新しいエネルギー

めあて 新しいエネルギーに対する筆者の考えや説明の仕方について、自分の考えをまとめよう。

一 筆者の考えや説明の仕方について、これまでの学習を振り返りながら、自分の考えをまとめよう。

(例) わたしは、エネルギーという言葉聞いて、これまでは、力強さ、熱さなどのイメージをもっていましたが、温度を下げることもエネルギーであることを知って驚きました。さらに、雪をそのエネルギーに活用することができることは、限りある化石燃料とはちがって、自然の豊かさを活用することができる上でとても有効だと思います。身近な自然に目を向け、見直していくことが新しいエネルギー社会につながる事が分かりました。

わたしの学校には、太陽光を生かしたソーラーパネルがあります。豊かな自然を生かして、再生可能エネルギーに変えていく発想をもって、環境を大切にしていきたいと思えます。

※「雪のエネルギー利用」と「説明の仕方」などにふれて書かれていれよ。

二 教科書六二ページの「言葉を学ぼう」にある「四字の漢字で表す言葉」を使って、短文を書きましょう。ただし、主語を必ず書きましょう。

(例) わたしは、郷土料理が大好きで、中でも、みそにこみうどんをよく食べる。
ぼくは、テレビで党首会談を見た。

三 教科書六二ページの「言葉を増やそう」にあるような「外来語を組み合わせた言葉」を、身の回りからさがして書きましょう。

(例) 東京オリンピック、観光ガイド、東京デイズニールランド、名古屋国際センター など

四 教科書六三ページ「ここが大事」を音読しましょう。音読できたら□に丸をつけましょう。

振り返ろう

○

- ・雪のエネルギーの利用例や、その長所と短所などをとらえながら、筆者が言いたいことをつかむことができましたか。
- ・筆者の説明の仕方特徴について、考えることができましたか。

◎・○・△

◎・○・△

主語と述語の対応をみる

めあて 主語と述語の対応を確かめ、文のねじれを正しく直そう。

一 次の文は、主語と述語が正しく対応していません。どのように直したらよいでしょう。条件に合うように書きましょう。

私の将来の夢は、病気で苦しんでいる人々を助ける医者になりたいです。

☆主語と述語を抜き出してみると、少し不自然な感じがしますね。

(1) 主語のまとまりはそのままにして、述語を直す。

私の将来の夢は、病気で苦しんでいる人々を助ける医者に（なること）です。

(2) 述語はそのままにして、主語のまとまりを直す。

（私は）、病気で苦しんでいる人々を助ける医者になりたいです。

二 主語と述語が正しく対応した文にするには、どのように直したらよいか、考えてみましょう。

(1) 練習したおかげで、私は友達から「とても上手になったね。」と言いました。

(例) 練習したおかげで、私は友達から「とても上手になったね。」と言われました。

(2) 私の短所は、一つのことになると、ほかのことが見えなくなる。

(例) 私の短所は、一つのことになると、ほかのことが見えなくなることです。

(例) 一つのことになると、ほかのことが見えなくなることが私の短所です。

(3) この本から学んだことは、練習をしっかりとやることの大切さを学びました。

(例) この本から学んだことは、練習をしっかりとやることの大切さです。

(例) この本から、練習をしっかりとやることの大切さを学びました。

☆ 文章を書くときは、主語と述語が対応しているかを確かめましょう。

☆ 一文が長くなる、主語と述語がねじれやすいので気をつけましょう。

☆ 国語の学習だけでなく、他の教科でも確かめられるといいですね。